

人類生存のための医療安全 ---利益誘導に惑わされた安全

日本医療安全学会理事長 酒井亮二

常日頃、事故発生はまれなことが多い。

発生確率の低さのため、日ごろに行われている多数の行為の中で、まれに発生する事故に対して、当事者は「たまたま運が悪かった」という反省で済ませてしまうことも多々見受けられます。

他方、マスメディアではたまたま発生する事故に対して大変に関心を寄せることも多いものです。

この矛盾は何故発生するのでしょうか？

私が昔行った日本人のリスク意識度調査では、生活上での様々なリスクが3種類に大別されました。最も重要視されているリスクは戦争・災害の類で、これは集団の保存本能に対する脅威を意味しています。第2番目に重要視されるリスクは健康障害であり、これは個体保存の本能に対する脅威です。最後に重要視されるリスクは経済リスクや福祉リスクといった社会生活での脅威です。このリスク順位はなるほどなあ、と思います。

さて、医療機関内部での医療事故はたまたま少数の個体で発生するリスクです。現象の表面を見ると、医療事故は上記のリスク順位では第2番目のリスク、個体保存の問題です。

にもかかわらず、マスメディアに代表されるように社会は医療事故に関しては大変厳しい目で監視しています。

感染症を除き傷病は個体保存の問題です。そのために、個人の非感染性疾患に対して社会は日常では強い関心を持ちません。ある個人が患う病気はプライバシーの問題。つまり、非感染性疾患は個人財産の問題です。従ってマスメディアも大々的に関心を寄せることはまれです。

医療事故も個体への傷病という個体保存問題です。感染性でなければ、医療事故は極めてまれに起きる個体保存問題と、言えます。従って、院内の職員の医療事故への意識は高くなり得ません。

しかし、医療事故の原因はそれを除去しない場合、他の患者にもその医療事故が発生します。つまり、感染症のように医療事故は集団発生の可能性が極めて高い。人は「あの病院に行ったら、私も事故に遭うかもしれない」と考えます。医療事故は個体問題であると同時に集団・社会の問題です。

つまり、安全は個人財産問題だけでなく、公共財産問題でもあります。そのために、社会は医療事故に極めて強い関心があります。安全の公共性を認識しない医療者の場合は、医療事故はたまたま偶然起きた悪夢としか理解できません。食品安全、交通安全、感染症安全と同様に医療安全も公共財産の侵害という本質があり、個人問題対応だけでは不十分です。

安全の個人問題という観点だけでは、利益誘導型のアイデアが発生する、と言い得るのではないのでしょうか？利益誘導に惑わされた安全意識を有し、リスクを軽視する多数の会社が破産・倒産しています。

ヒポクラテスの教えにみるように、医療が安全でないと人類は存続できない。安全な医療は人類生存の原理。